青山国際政経論集 96 号，2016 年 5 月

資　料

柴田敬研究文献目録（追録）

公　文　園　子*
本　田　重　美**
岡　村　　稔**

はしがき

私たちは柴田敬に関する「研究文献目録」という資料を 1989 年 3 月に関西大学『経済論集』（第 38 巻第 6 号）に発表したが，それはその後青山学院大学『国際政経論集』に引き継がれ，40 号（1997 年 5 月），58 号（2002 年 10 月），78 号（2009 年 5 月）の 3 回にわたって発表してきた。本稿はその続編であり，前稿以降現在までに新たに公刊された文献だけでなく，それ以前のものに遡って前掲の文献目録から漏れていたものを収録したものである。

当初は，柴田敬の業績がどのような影響を内外の学界に与えたかを示す指標として，柴田敬の著作名が具体的に引用されている文献を紹介するという方法が採用されていた。だが，発表を続けてゆくうちに，採録の基準を変えたほうがよいのではないかと思うようになった。柴田の名前は様々のところで登場する。もっとも登場するといっても，それが事のついでに軽くふれられるだけのものもある。どの程度なら収録するかは問題のあるところであるが，私たちはできるだけ広範囲に収録するという方針ですすめてきた。これらの資料は，柴田の人と学問に関心を持つ人々にとって，有益な文献となるであろうと考えたからである。

*　元明星大学教授
**　青山学院大学国際政治経済学部教授

© Aoyama Gakuin University, Society of International Politics, Economics and Communication, 2016

本稿を編むにあたり，多くの方々のご教示にあずかった。とりわけ，資料収集の上で摂南大学の牧野邦昭氏に負うところが多い。2015 年 3 月に刊行された氏の『評伝柴田敬』（日本経済評論社）の中には，これまで私たちが知らなかった柴田の著作のみならず，関係資料が多数活用されており，それらを本稿に収めることができた。記してお礼を申しあげる次第である。

以下，（Ⅰ）では研究文献を，（Ⅱ）では柴田敬の著作のタイトルを，（Ⅲ）では座談会のタイトルを掲載する。

（Ⅰ） 研究文献

小泉　信三

「理論経済学界の収穫と展望」（発表題「昨年の収穫と今後の発展――理論経済学」）『中央公論』1931 年 1 月号．（再掲：『小泉信三全集』第 9 巻，文芸春秋，1968 年，p. 478）

安井　琢磨

「ユリウス・ノイバウエル「カッセルの価格理論」」『経済学論集』第 1 巻第 8 号，1931 年 11 月，pp. 128–137.

宮川　実

「経済学旧派理論の建直――新興経済学の論争（回顧と展望――社会科学）」『帝国大学新聞』帝国大学新聞社，1936 年 1 月 1 日.

小泉　信三

『アメリカ紀行』岩波書店，1938 年 5 月．（再掲：『小泉信三全集』第 22 巻，文芸春秋，1968 年，p. 60.）

無署名

「箱根丸神戸へ帰る」『読売新聞』朝刊，1938 年 5 月 15 日.

Coville, Cabot

“Some Japanese Economic Writings of 1937”, *Monumenta Nipponica*, Vol. 2, No. 1, Sophia University, January 1939, pp. 301–306.

京都帝国大学新聞部

「柴田助教授に学位」『京都帝国大学新聞』，1939 年 2 月 5 日，p. 453.

司法省

「河合教授問題の発生及経過に関する調査」『思想月報』57 号，司法省刑事局思想部，1939 年 3 月，（再掲：参考文献懇談会編『思想月報 第 57 号，第 58 号 昭和前期 思想資料 第 1 期』文生書院，1974 年 6 月，pp. 49–105.；掛川トミ子解説（編集）『現代史資料（42）思想統制』みすず書房，1976 年 11 月，pp. 321–349）

東畑　精一

「編輯後記」『経済往来』14 号，1941 年 3 月，p. 40.

大熊　信行

『経済本質論』日本評論社，1941 年 8 月，pp. 368–369.

文部大臣官房文書課

『戦後教育事務処理提要 第三集』文部省，1949 年，p. 45.

総理庁官房調査課

『公職追放に関する覚書該当者名簿』日比谷政経会，1949 年，p. 558.

通商産業省大臣官房調査統計部編

『通商産業省年報（昭和 25 年度）』奥村印刷株式会社出版部，1950 年，p. 388.

特許庁総務部総務課

『特許庁年報 第 2 巻（昭和 24 年）』1951 年，p. 54.

参議院

「第 16 回国会参議院文部委員会」第 11 号（1953 年 7 月 23 日）須藤五郎（日本共産党）の質問，pp. 6–7.

参議院

「第 19 回国会参議院文部委員会」第 8 号（1954 年 3 月 13 日）田中啓一（自由党）の質問，pp. 4–5.

中央公論社

『中央公論社七十年史』中央公論社，1955 年，p. 336.

労働省編

『昭和 29 年版資料労働運動史』労働行政研究所，1955 年，p. 102.

湯村　栄一

『自由文教人連盟の回顧と展望――四国高知大会への報告』自由文教人連盟，1956 年，p. 12.

日本教職員組合編

『日教組十年史 1947–1957』日本教職員組合，1958 年，p. 257.

無署名

「新時代の理念――民主経済・講演会報告」『真実』第 6 巻 第 2 号，民主経済研究会，1960 年，p. 12.

無署名

「期待と激励――石田労相・佐々木官房副長官就任祝賀会」『真実』第 6 巻 第 10 号，1960 年，p. 41.

置塩　信雄，後尾　哲也，足達　和久

「水谷博士――人と学説」『国民経済学雑誌』第 104 巻 第 2 号，1961 年，p. 93.

無署名

「副会長に柴田博士が就任」『真実』7 巻 1 号，1961 年 1・2 月合併号，民主経済研究会，pp. 131–133.

林　弘道

「“早く結婚しておけ”――柴田先生を囲んで――」『ヴェリーテ』No. 7，柴田・安部ゼミナール（山口大学）1961 年 12 月，pp. 12–14.

安部　一成

「柴田先生著作目録について」『ヴェリーテ』No. 8，1962 年 12 月，p. 12.

国末　護

「柴田教授の御還暦祝賀会に出席して」『ヴェリーテ』No. 8，1962 年 12 月，p. 13.

楠　昭八郎

「柴田先生と我が学生生活」『ヴェリーテ』No. 8，1962 年 12 月，pp. 18–20.

ブロンフェンブレナー（Martin Bronfenbrenner）

「団体交渉のあり方について」『真実』9 巻 7 号，民主経済研究会，1963 年 7 月，pp. 8–13.

石川　正敏

『政治なき政治――木村武雄・評伝』時事通信社，1963 年，p. 202.

笠井　昌二

「危ない会社」『同好』第 5 号，京都大学経済学部同窓会，1963 年，p. 31.

朝日ジャーナル編集部

「地方大学自治の苦悩」『朝日ジャーナル』Vol. 7，No. 16，1965 年 4 月，pp. 20–25.

都留　重人

「河上さんの色紙」『河上肇著作集 月報12』筑摩書房，1965年5月，pp. 1–2.（再録：都留重人『人と旅と本：都留重人著作集 第 11 巻』，1976 年 4 月，pp. 214–217）

和田　善太郎

『マルクス主義の論戦――ソ連アカデミックとの理論闘争記録』講談社，1966 年 2 月，p. 165.

都留　重人

「オスカー・ランゲを悼む」『経済研究』第 17 巻 第 2 号，岩波書店，1966 年 4 月，pp. 166–170.（再掲：オスカー・ランゲ著，都留重人他訳『経済発展と社会の進歩』，岩波書店，1970 年 5 月，pp. 311–326）

無署名

「民主経済研究会第五回・夏季セミナーの開催」『真実』12 巻 3 号，1966 年 4 月，民主経済研究会，pp. 28–29.

木戸　幸一（木戸日記研究会校訂）

『木戸幸一日記 下巻』東京大学出版会，1966 年 7 月，p. 1178.

荒原　朴水

『大右翼史』大日本国民党，1966 年，p. 595，p. 600.

杉原　四郎

「『経済論叢』のこと」『同好』第 8 号，京都大学経済学部同窓会，1966 年.（再掲：『読書紀行』未来社，1975 年 3 月，pp. 32–35）

Samuelson, P. A.

"Marxian Economics as Economics", *American Economic Review* Vol. 57, No. 2, May 1967, pp. 616–623.（再掲：*Karl Marx's Economics: Critical Assessments Volume III*, ed. by Wood, John Cunningham, Croom Helm, London and New York, 1988, pp. 107–114. 翻訳「経済学としてのマルクス経済学」『サミュエルソン経済学体系 第 9 巻』篠原三代平，佐藤隆三編集，勁草書房，pp. 103–114.）

無署名

『京都大学 70 年史』京都大学 70 年史編集委員会，1967 年 11 月，p. 406，p. 410.

Goodman, Grant K.（Compiler）

The American Occupation of Japan: A Retrospective View, International Studies, East Asian Series Research Publication, No. 2, Center for East Asian Studies, The University of Kansas, 1968, p. 25.

Rosen, George

"Review: Economic Development in Asian Perspective, by Shigeru Ishikawa, Tokyo: Kinokuniya, 1967", *American Economic Review* Vol. 58, No. 4, September, 1968, pp. 989–992.

真実　一夫

「近代経済学の導入史」『近代日本経済思想史 1』長幸男，住谷一彦編，有斐閣，1969 年 12 月，pp. 381–400.

和田　善太郎

『しあわせの論理――新しい社会科学への道』読売新聞社，1970 年，pp. 96–99.

井家　上専

「戦中戦後備忘録（1）」『現代人』，1971 年 4 月号，現代人協会，pp. 47–48.

内務省警保局編

「京都市役所内左翼グループの活動状況」『社会運動の状況 復刻版 14，昭和 17 年』三一書房，1972 年，p. 90.

ヴェリーテ編集部

「柴田ゼミ OB 座談会」『ヴェリーテ』20 号，1972 年 12 月，pp. 18–21.

石田　良三郎

「思い出（9）」『現代人』，1974 年 6 月号，pp. 46–48.

同上

「思い出（10）」『現代人』，1974 年 7 月号，pp. 45–48.

同上

「思い出（11）」『現代人』，1974 年 8・9 月号，pp. 44–47.

天野　元之助

「私の学問的遍歴 五苦難から立ちあがる」『UP』第 31 号，1975 年，p. 19.

無署名

「京都大学 裏目に出る共同体意識」『エコノミスト』臨時増刊，1975 年 11 月 10 日，pp. 112–113.

山領　健二

『転向の時代と知識人』三一書房，1978 年，pp. 263–282.

大蔵省大臣官房調査企画課編

『聞書戦時財政金融史』大蔵財務協会，1978 年，p. 449.

宮本　又次

『私の研究遍歴――経済史・経営史・郷土史』大原新生社，1978 年 11 月，p. 104.

置塩　信雄

『資本制経済の基礎理論 増訂版』創文社，1978 年 2 月，pp. 107–129，p. 143.

Kolm, Serge-Christophe

"Science économique et position politique", *Revue économique*, Vol. 29, No. 4, Sciences Po University Press, Juillet 1978, pp. 605–654.

香西　泰

「転換期の経済学（柴田敬著）今月の一冊」『経済セミナー』292 号，日本評論社，1979 年 5 月，pp. 98–99.

中山　伊知郎，早坂　忠（インタビユー）

「シュムペーター経済学からケインズ経済学へ――私の学問遍歴」『週刊東洋経済』臨時増刊号 近代経済学シリーズ No. 49，1979 年 7 月 13 日，pp. 148–161.

室田　武

『エネルギーとエントロピーの経済学』東洋経済新報社，1979 年 11 月，p. 145.

拓殖　秀臣

『民科と私――戦後一科学者の歩み』勁草書房，1980 年，p. 61.

湯治　万蔵 編

『建国大学年表』建国大学同窓会建大史編纂委員会，1981 年，pp. 39–40.

Bronfenbrenner, Martin

"Professor Takata Yasuma, A Foreiner's Recollections"『高田保馬博士の生涯と学説』高田保馬博士追想録刊行会編，創文社，1981 年 1 月，pp. 471–484.（島津亮二訳，「高田保馬教授――ある外国人の追憶」，pp. 460–471）

山口大学 30 年史編集委員会

『山口大学 30 年史』山口大学，1982 年，p. 430，p. 440，pp. 454–455.

都留　重人，早坂　忠（インタビユー）

「戦中戦後の日本経済と経済学」『週刊東洋経済』臨時増刊号 近代経済学シリーズ，No. 61，1982 年 5 月，pp. 134–145.

照沼　康孝

「東亜連盟協会」『年報・近代日本研究 5――昭和期の社会運動』山川出版社，1983 年，p. 306.

杉原　四郎

「最近出た経済学者の追悼文集」『甲南経済学論集』第 23 巻 第 3 号，1983 年 1 月，p. 156.（再掲：『思想家の書誌――研究ノート』日外アソシエーツ，1990 年 5 月，p. 103）

都留　重人

『体制変革の政治経済学』新評論，1983 年 4 月，pp. 186–187.

無署名

『川上肇全集』第 26 巻，岩波書店，1984 年，pp. 350–351.

安井　謙

『ほどほど哲学（私の履歴書）』日本経済新聞社，1985 年 6 月，p. 39.

徳山市史編纂委員会編

『徳山市史下巻』徳山市，1985 年，p. 799.

大川　周明

『大川周明日記――明治 36 年～昭和 24 年』大川周明顕彰会編，岩崎学術出版社，1986 年 9 月，p. 362.

宮武　剛

『将軍の遺言――遠藤三郎日記』毎日新聞社，1986 年 4 月，pp. 197–198.

安部　一成

「柴田先生を偲ぶ」『ヴェリーテ』No. 35，1986 年 12 月，pp. 4–7.

山本　英太郎

「柴田先生をしのんで――学生時代の思い出」『ヴェリーテ』No. 35，1986 年 12 月，pp. 7–10.

田上　梯三

「柴田先生をしのんで」『ヴェリーテ』No. 35，1986 年 12 月，pp. 10–11.

安部　雅雄

「柴田先生の思い出」『ヴェリーテ』No. 35，1986 年 12 月，pp. 11–12.

新田　政則

「柴田先生を偲んで」『ヴェリーテ』No. 35，1986 年 12 月，pp. 12–13.

杉原　四郎（対談）

「杉原四郎先生に聞く」『経済科学通信』第 53 号，基礎経済学研究所，1987 年 7 月，pp. 2–11.（再掲：『読書流紋』未来社，1990 年 5 月，pp. 48–73）

杉原　四郎

「1987 年の収穫」『週刊読書人』読書人，1987 年 12 月 21 日号.（再掲：『読書流紋』未来社，1990 年 5 月，p. 191）

サミュエルソン，ポール，A（宮崎　耕一 訳）

「経済学二〇世紀の遺産：この 100 年，経済学は何を成し遂げたか」『エコノミスト』65 周年記念臨時増刊号，1988 年 11 月 7 日号，pp. 16–23.

藤野　豊

『水平運動の社会思想史的研究』雄山閣出版，1989 年 11 月，p. 306.

杉原　四郎

「佐藤金三郎氏と私」『追悼・佐藤金三郎』藤原義雄編，新評論，1989 年 4 月.（再掲：『読書流紋』未来社，1990 年 5 月，pp. 134–135）

財団法人海外技術者研修協会編

『海外技術者研修協会 30 年史』財団法人海外技術者研修協会，1990 年，p. 241.

杉原　四郎

「経済学者の追悼文集あとがき」『思想家の書誌――研究ノート』内外アソシエーツ，1990 年 5 月，pp. 145–146.

伊東　光晴，根井　雅弘

『シュンペーター：孤高の経済学者』岩波書店，1993 年 3 月，p. 93.

秦　郁彦

『昭和史の謎を追う 下』文芸春秋，1993 年 3 月，pp. 238–240，pp. 244–245，p. 250.

池尾　愛子

「儒教と経済発展巡り議論沸騰」『読売新聞』夕刊，1995 年 9 月 26 日.

根岸　隆

『経済学史入門』放送大学教育振興会，1997 年 3 月，p. 62，p. 74.

Ikeo, Aiko（池尾　愛子）

"The Internationalization of Economics in Japan" in *The Post-1945 Internationalization of Economics: Annual Supplement to Volume 28*, History of Political Economy, ed. by A. W. Costs, Duke University Press, 1997, pp. 125–126.

田中　直吉

「思い出すままに」『情念の人田中直吉先生』田中直吉先生追悼文集刊行委員会編，1997 年，pp. 12–13.

日本経済評論社編集部

「書斎の窓から」『評論』No. 100，1997 年 4 月，pp. 14–15.（再掲：栗原哲也『神保町の窓から』影書房，2012 年 10 月，p. 96.）

森嶋　通夫

『血にコクリコの花咲けば：ある人生の記録』朝日新聞社，1997 年 4 月，p. 89.

M. C. ハワード，J. E. キング（根津　純雄 訳）

『マルクス経済学の歴史（下）』ナカニシヤ出版，1998 年，p. 208.

八木　紀一郎

「経済学の学術体制」『日本の経済学と経済学者――戦後の研究環境と政策形成』第 2 章，池尾愛子編，日本経済評論社，1999 年 1 月，p. 71，p. 77，p. 101.

根岸　隆

「誤解された大経済学者たち（要旨）」『一橋大学社会科学古典センター年報』19，1999 年 3 月，pp. 14–17.

森嶋　通夫

『なぜ日本は没落するのか』岩波書店，1999 年 3 月，p. 204.

加藤　敬弘

『環境と経済学』八朔社，1999 年 5 月，p. 1，pp. 7–10，第 1 章，p. 184，

p. 187.

京都大学経済学研究科経済学部史編纂委員会

『京都大学経済学部 80 年史』京都大学経済学部 80 年周年記念事業実行委員会，1999 年，p. 51.

無署名

“Book Notes: Shiro Sugihara and Toshihiro Tanaka, eds., *Economic Thought and Modernization in Japan*, Cheltenham, U. K.: Edward Elgar, 1998”, *American Journal of Economics and Sociology*, Vol. 58, No. 3, July 1999, pp. 487–490.

関西大学図書館編

『日本文学報国会大日本言論報国会設立関係書類 上巻』関西大学出版部，2000 年，pp. 450–468.

Yagi, Kiichiro（八木　紀一郎）

“Economics in the academic institutions after 1945”, in *Japanese Economics and Economists since 1945* ed. by Aiko Ikeo, Routledge, 2000, pp. 50–92. p. 60.

角山　栄

「大塚史学への挑戦」（前編）『中央公論』，2000 年 2 月，pp. 260–275.

藤田　宏二

『線形経済学の世界――経済循環の理論』晃洋書房，2000 年，pp. 130–133.

室田　武

『物質循環のエコロジー』晃洋書房，2001 年 5 月，p. 2，p. 29.

都留　重人

『いくつもの帰路を回顧して』岩波書店，2001 年，p. 134，pp. 142–143.

大橋　良介

『京都学派と日本海軍――新資料「大島メモ」をめぐって』PHP 研究所，2001 年 12 月，p. 276.

Negishi, Takashi（根岸　隆）

"The General Equilibrium Theory in 20th Century Japan", I*nternational Journal of Applied Economics and Econometrics*, Vol. 10, No. 3, 2002, pp. 480–489.（再掲：『経済学の理論と発展』ミネルヴァ書房，2008 年 11 月，IX 章）

上久保　敏

「書評：杉原四郎著『日本の経済思想史』」『経済論集』第 52 巻 第 1 号，関西大学経済学会，2002 年 6 月，pp. 81–88.

西　淳

「柴田敬と高田保馬の転化論論争」『阪南論集 社会科学編』Vol. 39，No. 1，阪南大学学会，2003 年 11 月，pp. 45–60.

無署名

『青山学院大学 50 年史』青山学院大学 50 年史編纂委員会編，2003 年，pp. 216–217.

無署名

「統計・役職者一覧・事務組織等」『青山学院大学 50 年史 資料編』，2003 年，p. 643.

森嶋　通夫（西村　和雄 訳）

『ワルラスの経済学：資本と貨幣の純粋理論』森嶋通夫著作集 9，岩波書店，2004 年，p. 183.

池尾　愛子

「ケインズの経済学からケインズ経済学へ」『早稲田商学』第 402 号，早稲田商学同攻会，2004 年 9 月，pp. 1–37.

Barshay, Andrew

The Social Sciences in Modern Japan: The Marxian and Modernist Traditions, University California Press, 2004, p. 49.（『近代日本の社会科学：丸山真男と宇野弘蔵の射程』（山田鋭夫訳）NTT 出版，2007 年 3 月，p. 62）

板木　雅彦

「利潤率の長期低落傾向と置塩定理の展開（上）」『立命館国際研究』17 巻 1

号，立命館大学国際関係学会，2004 年 6 月，pp. 1–17.

根岸　隆

『経済学史 24 の謎』有斐閣，2004 年 10 月，12 章，18 章，p. 179.

上久保　敏

「早坂忠の日本経済学史研究」『大阪工業大学紀要　人文社会編』，第 50 巻 第 1 号，2005 年，pp. 1–25.

牧野　邦昭

「高田保馬の価格論と勢力説」『経済論叢』第 176 巻 4 号，2005 年 10 月，pp. 514–539.

鳳陽会編

『花なき山の、、、:「山口高商 75 年の学窓物語」』鳳陽会，2005 年，p. 64，pp. 283–284，p. 286.

岡田　光正

『コンドラチェフ経済動学の世界――長期景気波動論と確率統計哲学――』世界書院，2006 年 4 月，p. 90，pp. 233–235.

牧野　邦昭

「経済学と「政治的なもの」――純粋経済学・政治経済学・近代経済学」『思想』No. 986，岩波書店，2006 年 6 月，pp. 75–97.

細川　元雄

「杉原四郎先生と川上肇記念会のことなど」『杉原四郎著作集 月報 3』藤原書店，2006 年 9 月，pp. 1–3.

Schumpeter, J. A.，中路　敬（解題，翻訳）

「J. A. シュンペーター講演録「世界不況――特にアメリカ合衆国に言及しつつ――」」『高崎経済大学論集』第 49 巻 第 2 号，2006 年 9 月，pp. 115–124.

柳沢　哲哉

「安井琢磨遺稿の分析」『総合研究機構研究プロジェクト研究成果報告書 第 4 号』埼玉大学総合研究機構，2006 年.

山本　礼子

『米国対日占領下における「教職追放」と教職適格審査』学術出版社，2007年，pp. 41–42.

川勝　平太

「経済教室：見直される日本の経済思想（下）田口卯吉」『日本経済新聞』朝刊，2007年3月8日.

大槻　忠史

「N. D. コンドラチエフと S. デ・ヴォルフの大循環研究――1920年代の研究を通じた両者の相違――」『経済学史研究』49巻2号，経済学史学会，2007年，pp. 35–51.

柳沢　治

『戦前・戦後日本の経済思想とナチズム』岩波書店，2008年2月，p. 36，p. 361.

西　淳

「高田保馬の転化論――拙稿（2003）「柴田敬と高田保馬の転化論論争」への補論――」『阪南論集 社会科学編』Vol. 43，No. 2，2008年3月，pp. 107–113.

牧野　邦昭

「柴田敬の独占資本主義」『経済論叢』第181巻 第4号，2008年4月，pp. 15–36.

安河内　眞彦

「福商の輝く星――福商が生んだ世界的経済学者柴田敬博士」『福商会報』Vol. 151，福商会，2008年5月，pp. 20–23.

寺出　道雄

『知の前衛たち――近代日本におけるマルクス主義の衝撃』ミネルヴァ書房，2008年6月，第6章.

裴　富吉（Bae Boo-Gil）

『経営学理論の歴史的展開――日本学説の特質とその解明――』三恵社，

2008 年 9 月，p. 26，pp. 28–29.

上久保　敏

「立仙淳三と日本経済学――「教科書版」日本経済学の登場――」『大阪工業大学紀要　人文社会編』，第 53 巻 第 1 号，2008 年 10 月，pp. 1–18.

根岸　隆

『経済学の理論と発展』ミネルヴァ書房，2008 年 11 月，IX 章，XI 章，p. 206.（XI 章の初出は “Shibata on Power or Market: A Supplementary Note” The Aoyama Journal of International Politics, Economics and Business, No. 53, May 2001, pp. 211–218）

来栖　才敦

「柴田敬教授を思う」『鳳陽』第 135 号，2009 年 1 月，pp. 17–18

根岸　隆

「柴田博士と新経済論理」『日本学士院紀要』第 63 巻 第 3 号，2009 年 3 月，pp. 197–213.

小峯　敦

「日本におけるロビンズの導入過程――1930 年代と 50 年代，経済学者の反応様式――」Discussion Paper Series No. 09–01，龍谷大学経済学部，2009 年 5 月.

木村　栄一

「柴田敬先生と都留重人先生の事」『鳳陽』第 136 号，2009 年 5 月，pp. 14–15.

無署名（文鳥）

「大磯小磯：いまこそ柴田敬に学べ」『日本経済新聞』朝刊，2009 年 5 月 26 日.

小野　進

「主流派経済学対代替フレーム・ワーク：Geoffrey M. Hodgson の魅力的な alternative approach の提案について考える」『立命館経済学』第 58 巻 第 2 号，2009 年 7 月，pp. 108–152.

Rieu, Dong-Min

"The Shibata-Okishio Connection: Labor Theory of Value and Rate of Profit" *Journal of the History of Economic Thought,* Vol. 31, No. 3, September 2009, pp. 325–339.

公文　園子

「杉原四郎先生の思い出」『環』39 巻，藤原書店，2009 年 10 月，pp. 228–230.

栗原　哲也

「不思議な赤い糸」同上，pp. 230–232.

後藤　嘉宏

「学びの縁を辿る思想史家」同上，pp. 236–237.

高橋　哲雄

「盗めたもの盗めなかったもの」同上，pp. 245–247.

角山　栄

「青春時代の杉原四郎さん」同上，pp. 255–257.

松尾　尊兊

「『河上肇全集』刊行の頃」同上，pp. 266–268.

八木　紀一郎

「慈父の温容」同上，pp. 272–273.

斎藤　誠

「経済教室：75 周年を迎える日本経済学会」『日本経済新聞』朝刊，2009 年 10 月 8 日.

日本経済学会連合

Information Bulletin of the Union of National Economic Associations in Japan, No. 29, 2009, p. 18.

熊谷　次郎

「追悼」『経済学史学会ニュース』第 35 号，2010 年 1 月，p. 16.

公文　園子

「柴田敬先生が残したもの」『評論』No. 177，日本経済評論社，2010 年 2 月，pp. 1–3.

日本経済評論社編集部

「書斎の窓から」『評論』日本経済評論社 No. 177，2010 年 2 月，pp. 14–15.（再録：栗原哲也『神保町の窓から』影書房，2012 年 10 月，pp. 253–254）

西　淳

「一般均衡理論と動学理論――高田保馬から青山秀夫へ」『阪南論集 社会科学編』Vol. 45，No. 2，2010 年 3 月，pp. 129–148.

牧野　邦昭

『戦時下の経済学者』中央公論社，2010 年 6 月．第 2 章.

高橋　哲雄

『先生とはなにか――京都大学師弟物語』ミネルヴァ書房，2010 年 6 月，第 1 章，第 2 章.

根岸　隆

「高田保馬博士と勢力説」『日本学士院紀要』第 65 巻 第 1 号，2010 年 9 月，pp. 75–91.

西沢　保

「戦前の日本経済学会」『日本経済学会 75 年史――回顧と展望』第 1 章，日本経済学会編，有斐閣，2010 年 10 月，pp. 3–37.

猪木　武徳

「日本経済学会の歩み戦後復興期から「理論・計量経済学会」誕生まで：1045–67 年」『日本経済学会 75 年史――回顧と展望』第 2 章，日本経済学会編，有斐閣，2010 年 10 月，pp. 39–63.

太田　誠，斎藤　誠，柴田　章久

「総会・理事会・常任理事会の議事から見た学会の歩み学会統合から現代まで」『日本経済学会 75 年史――回顧と展望』第 3 章，日本経済学会編，有斐閣，2010 年 10 月，pp. 65–162.

斎藤　誠，柴田　章久，鈴木　史馬，顧　濤

「大会報告論文と機関誌掲載論文に見る研究分野と研究スタイルの変遷」『日本経済学会 75 年史――回顧と展望』第 5 章，日本経済学会編，有斐閣，2010 年 10 月，pp. 193–234.

角山　栄

『新しい歴史像を探し求めて』ミネルヴァ書房，2010 年，p. 8.

池尾　愛子

「M. ブロンフェンブレンナーと戦後日本経済の再建（1947–1952）」『日本経済思想史研究』第 11 号，2011 年，pp. 42–46.

山崎　益吉

「Life-economics の時代」『高崎経済大学論集』第 53 巻第 4 号，2011 年 3 月，pp. 1–14.

Mori, Kenji（守　健二）

"Charasoff and Dmitriev: An analytical characterisation of origins of linear economics", *International Critical Thought,* Vol. 1, No. 1, March 2011, pp. 76–91

Ikeo, Aiko（池尾　愛子）

"The American Economist Martin Bronfenbrenner（1914–1997）and the Reconstruction of the Japanese Economy（1947–1952）", *CHOPE Working Paper*, No. 2011–11, Center for the History of Political Economy at Duke University, June 2011.

Dimand, Robert W., and Msazumi Wakatabe（若田部　昌澄）

"The *Kyoto University Economic Review*（1926–44）as importer and exporter of economic ideas: bringing Lausanne, Cambridge, Vienna and Marx to Japan", in *The Dissemination of Economic Ideas* ed. by Heinz D. Kurz, Tamotsu Nishizawa and Keith Tribe, Edward Elgar Pub. 2011, Ch. 10.

根岸　隆

『一般均衡論から経済学史へ］ミネルヴァ書房，2011 年 12 月，p. 106, p. 115，pp. 148–149，p. 229.

西　淳

「一般均衡理論とマルクス――柴田敬の経済学――」『阪南論集 社会科学編』Vol. 47，No. 2，2012 年 3 月，pp. 155–176.

大槻　忠史

「日本における大循環研究と赤松要――1930 年代を通じた学説的位置」経済学史学会 第 76 回大会，経済学史学会ホームページ（jshet.net）2012 年 5 月.

牧野　邦昭

「柴田敬と「資本主義の危機」」『評論』No. 188，日本経済評論社，2012 年 7 月，pp. 6–7.

Nishizawa, Tamotsu（西沢　保）

"The Emergence of economic science in Japan and the evolution of textbooks 1860s–1930s", in *The Economic Reader: Textbooks, Manuals and the Dissemination of the Economic Sciences during the 19tth and Early 20th Centuries* ed. by Massimo M. Augello and Marco E. L. Guidi, Routledge, 2012, Ch. 11.

栗原　哲也

「決意を込めて――謝辞」『神保町の窓から』影書房，2012 年 10 月，p. 290.

西　淳

「柴田敬の再生産論研究について」『立命館経済学』第 61 巻 第 6 号，立命館大学経済学会，2013 年 3 月，pp. 212–235.

西　淳

「高田保馬の勢力説と経済学」『阪南論集 社会科学編』Vol.48，No. 2，2013 年 3 月，pp. 147–165.

西　淳

「柴田敬のマルクス研究――一般均衡論との総合に向けて」『日本経済思想史研究』第 13 号，2013 年 3 月，pp. 59–76.

西　淳

「柴田敬の経済学――再生産表式論研究を中心として――」経済学史学会第 77 回大会，経済学史学会ホームページ（jshet.net）2013 年 5 月.

西　淳

「自己回帰的生産構造における平均生産期間の規定問題――柴田敬の試みと松尾匡による定式化との関係――」『季刊 経済理論』第 50 巻第 2 号，経済理論学会編，2013 年 7 月，pp. 69–76.

牧野　邦昭

「[温経知世]／93 柴田　敬」『週刊エコノミスト』第 91 巻 第 36 号，2013 年 8 月 20 日，pp. 56–57.

上久保　敏

「戦時期の「日本文化講義」と経済学者」『大阪工業大学紀要 人文社会編』58 巻 2 号，大阪工業大学紀要編集委員会，2013，pp. 1–36.

Hirai, Toshiaki（平井　俊顕）

“Prof. Aoyama’s study on Robertson and Keynes in interwar Japan in comparison with my interpretation: “With or without” Dynamic General Equilibrium Theory（DGET）” in *The Development of Economics in Japan: From the inter-war period to the 2000s* ed. by Toichiro Asada, Routledge, 2014, Ch. 2.

Ikeo, Aiko（池尾　愛子）

A History of Economic Science in Japan: The Internationalization of economics in the twentieth century, Routlege, 2014, p. 17, pp. 20–21, pp. 27–28, pp. 87–88, p. 105, p. 118, pp. 205–7.

牧野　邦昭

「荒木光太郎の経済学研究と活動」経済学史学会 第 78 回大会，経済学史学会ホームページ（jshet.net）2014 年 5 月.

秋場　勝彦

「柴田敬の独占資本主義論：一般均衡論的アプローチ」経済学史学会 第 78 回大会，経済学史学会ホームページ（jshet.net）2014 年 5 月.

西　淳

「柴田敬によるベーム・バヴェルク理論の一般化の試み――生産構造の問題を中心として――」『経済学史研究』56 巻 1 号，経済学史学会，2014 年 7 月，pp. 48–70.

西　淳

「生存基本 Subsistence-Fund と資本 Capital についてのノート――西（2013），（2014 への補論）――」『阪南論集 社会科学編』Vol.50，No.1，2014 年 10 月，pp. 51–60.

西　淳

「生存基本分析と垂直的統合――柴田敬の経済学と L. パシネッティの経済学――」『阪南論集 社会科学編』Vol. 50，No. 2，2015 年 3 月，pp. 177–192.

リー・サンベック

「書評 Aiko Ikeo, *A History of Economic Science in Japan: The internationalization of economics in the twentieth century*（Routledge, 2014）」『早稲田商学』第 441・442 号合併号，2015 年 3 月，pp. 131–136.

牧野　邦昭

『柴田敬――資本主義の超克を目指して』日本経済評論社，2015 年 3 月.

日本経済評論社編集部

「神保町の窓から」『評論』No. 199，2015 年 4 月，pp. 14–15.

西　淳

「生存基本 Subsistence-Fund と資本 Capital についての一考察」経済学史学会 第 79 回大会，経済学史学会ホームページ（jshet.net）2015 年 5 月.

Wakatabe, Masazumi（若田部　昌澄）

“Keynesianism in Japan” 経済学史学会 第 79 回大会，経済学史学会ホームページ（jshet.net）2015 年 5 月.

（Ⅱ） 柴田敬の著作

「將來の通貨制度」『通貨制度研究会報告 第1輯』通貨制度研究会編，東洋経済出版部，1934年，pp. 556–565.

「貨幣的景氣論に就いて」『経済科学：四十四権威集 附録 世界の学者を語る』神戸商大新聞部編，甲文堂書店，1936年1月，pp. 42–44.

「歐米をめぐりて」『時局と日本精神』京都時局対応委員会編，昭徳会京都支部，1939年，pp. 7–11.

「我が經濟力」『講演集』和歌山司法保護委員会，1940年，pp. 1–30.

「經濟の新體制に就て」『公民講座』国民会館，第192号，1940年11月，pp. 6–32.

「進む建設經濟　經濟の革新に就いて」『財政』第5巻 第2号　大蔵財務協会，1940年2月，pp. 14–18.

「日本經濟革新案大綱」『野村銀行調査月報』野村銀行，1940年12月，pp. 41–47.

「共同的全體主義的經濟學」『經濟及經濟學の再出発』神戸商業大学新聞部編，日本評論社，1944年1月，pp. 81–98.

「危機論の危機――ソ連共産党大会の盲点」『日本及日本人』第4巻 第2号，日本及日本人社（J&Jコーポレーション），1953年2月，pp. 32–39.

「柴田式鉛蓄電池について」『電気計算』第18巻 第7号，電気書院，1950年7月.

「経済学は「逆立ち」している」『經濟往來』第5巻 第4号，經濟往來社，1953年，pp. 102–107.

「経済学的に見たる世界史の現段階 −1−」『綜合文化』第1巻 第7号，綜合文化協会，1955年11月，pp. 6–20.

「経済学的に見たる世界史の現段階 −2−」『綜合文化』第1巻 第8号，1955年12月，pp. 25–31.

「経済学的に見たる世界史の現段階 −3−」『綜合文化』第2巻 第1号，1956年

1 月，pp. 28–35.
「経済学的に見たる世界史の現段階 −4−」『綜合文化』第 2 巻 第 2 号，1956 年 2 月，pp. 6–20.
「経済学的に見たる世界史の現段階 −5−」『綜合文化』第 2 巻 第 3 号，1956 年 3 月，pp. 30–35.
「経済民主化の提唱」『綜合文化』第 2 巻 第 7 号，1956 年 7 月，pp. 37–48.
「世界の根底に動く力」『総合文化』第 3 巻 第 2 号，1957 年 2 月，pp. 24–36, p. 47.
「推薦のことば」『共産主義と民主主義の哲学』和田善太郎著，真実社，1957 年，p. 5.
「日本にひかれた三十八度線——この不幸をわれわれはいかに解決すべきか」『經濟往來』第 12 巻 第 8 号，經濟往來社，1960 年 8 月，pp. 14–20.
『ドル危機と国際通貨制度改善案』自由文教人連盟中央本部，1963 年 9 月.

（Ⅲ） 座談会

「赴難の学——出陣学徒に餞る」座談会『中央公論』1943 年 12 月号，pp. 94–111.
「秘密追随外交から立ち直るには」座談会『中央公論』1952 年 8 月号，pp. 49–57.